

『救いのカンセイ』（ルカの福音書 15章 8-10節）2023.9.10.

<はじめに> 落とし物をしたことがありますか。どんなものを無くして、その後どうしましたか。見つけ出せた時、どんな思いに満たされましたか。ここでは女の人が銀貨を失くしています。ギリシア銀貨の1ドラグマは、ローマ銀貨の1デナリに相当し、当時の労働者一日分の労賃の相場です。

I 失くしたら

①どこかにある(8)

銀貨は世間に数多く流通していますが、この10枚の銀貨は彼女のものです。そのうちの1枚を無くしたのです。銀貨が消えたのではなく、どこかにあるのでしょうか、持ち主の女性の手元にはなく、使えない状況です。

②銀貨に表されたもの(10)

イエスがこれを語った真意が10節に言い表されています。そこで人を銀貨に例えていると分かります。人間は、神がご自分との関係に生きるように造られた存在だと聖書は告げます。私たちは神のもの、神と結び付くことで、存在価値と意味を発揮できるのです。

③罪人(10)

10節で人間は一人の罪人として描かれます。持ち主から離れ、存在価値と意味が事実上無い状態にある銀貨は、その絵です。極悪人・犯罪人だけが罪人ではありません。見かけにかかわらず、造り主である神から離れ、本来の目的が果たせない状態こそ罪です。

II 見つけるまで

①10枚のうちの1枚(8)

この女性が失くした銀貨1枚を懸命に捜すのはなぜでしょう。銀貨そのものの価値を忘れ去ることができないからです。また、どうも10枚揃わないと困るようにも見えます。ならば、この10枚の銀貨は、女性にとってどんなものだったと想像できるでしょうか。

②一人の罪人(10)

イエスは神から離れている罪人の存在と、その人が持っている本来の価値と意味を取り戻したいと切望しておられます。その人一人が神の許に立ち返るまで、神の御計画は未完成です。その一人のために、イエスは今も語り続け、働いておられます。

③明かりをつけ(8)

女性が執拗に丹念に捜す姿も描かれています。銀貨は家の中に必ずある、との確信からの行動です。神は失われた人を捜すために、人の光なるキリストを世に送り(ヨハネ 1:4-5,9, 8:12)、人間社会の隙間にも行き巡るべく住まわせました(ヨハネ 1:14)。

III 見つけたら

①真価が輝く(9)

失くした1枚が見つかることで、10枚が揃い、その価値と目的が果たせるようになります。持ち主の女性は喜びと安堵に満たされます。神から離れた人間が悔い改めて神に立ち返るとき、その存在と真価も輝き、そのような人々が勢ぞろいすると救いが完成されます。

②一緒に喜んでください(9-10)

教会は神に立ち返った人たちの集まりです。先に立ち返った者は、あとに続く者が起こされ、皆が勢ぞろいするのを期待し、祈り働きます(I テモテ 2:1-4)。神の思いと計画の実現のために働く者が神の御使いで、それが進展するとき、神と一緒に大いに喜びます。

<おわりに> 「失くしたら」も「見つけたら」も仮定法で、読者を探り、問い掛けています。私と、私の造り主・所有者なる神との関係はどうなっているでしょう。見失っていても、神はどうされますか。神に見つけられた喜びは誰のものですか。私はその喜びを感じているのでしょうか。(H.M.)